

No.2722

書籍出版「インドネシア国家と西カリマンタン華人
：「辺境」からのナショナリズム形成」

早稲田大学アジア太平洋研究センター 助手
松村 智雄

2016年度の活動目的は、自身の博士論文を一般向けに改訂し出版することであった。1年間の活動期間中に、博士論文のすべてのページを改稿し、さらに2014度、2015年に貴財団からいただいた研究助成を用いた研究調査（主に香港、中国における調査）を踏まえて、そこで得られた情報を統合する形で改稿を進めた。拙著『インドネシア国家と西カリマンタン華人：「辺境」からのナショナリズム形成』は2017年2月28日に出版された。

本書は、これまで日本であまり知られていないカリマンタンの華人社会を対象とするだけではなく、そのような狭い問題関心の他に、固定的なイメージを以て語られてきた華僑華人と呼ばれる人々（中国と居住地のふたつのナショナリズムに翻弄されたということがよく言われる）の歴史をより良く理解することに取り組んだものである。平板なイメージ、ステレオタイプを以て理解されることが多い民族集団（日本人、ユダヤ人、ある国民など）を、より内在的な視点から理解するにはどのようにすればよいか、そのような人々をナショナリズムや帰属意識を以て語ることの限界はどこにあるか、そして、その問題点は何か、そしてそれはどのように克服できるのか、という問題に地域研究のアプローチで取り組んだ結果である。

中国国外の中国系住民（華人）については、これまで居住国の国家建設、国民統合におけるその同化過程に注目が集まり、国民国家との関係が強調されてきた。しかし、「通過者」とも表現できるような多地域にわたり移動を繰り返している人々（たとえば西カリマンタン、サラワク、シンガポール、マラヤ、中国といった地域間を目的地を定めず移動し続ける人々）の活動を国民統合の文脈で解釈する方法では、彼らの現実を理解するのは困難なのではないかという疑問が本書執筆の原点にあった。従来の「インドネシア民族形成」のストーリーではなく、むしろ国民統合の中で「辺境」に生きる華人の抱く、国民統合への違和感を掬いあげること注力した。これにより国家単位ではない地域理解を実践することを試みた。